

キャリア教育講演会の様子が、茨城新聞に掲載されました。

「夢中になれるものを」

麻生高OB宮内氏が講演

卒業生の話聞いて自らの進路選択に生かしてもらおうと、行方市麻生の麻生高校（小林宏之校長）は18日、キャリア教育講演会を行い、同校OBで中部大工学部准教授の宮内俊幸氏（40）が「バイオマスの活用とグリーンケミストリー」麻生高校で学んだことから現在の研究まで」と題し

て講演した。自らの進路も曲折があったことなどを明かし、「夢中になれることを突き詰めてほしい」などと呼び掛けた。

宮内氏は潮来市出身。同高から中部大に進み、同大学院を経て2007年に助教として採用された。現在は中部大工学部応用化学科の准教授を務め、「植物



母校で講演する中部大の宮内俊幸准教授＝行方市麻生

由来バイオマスの化学材料化とその応用」をテーマに研究を行っている。

講演では、自らの研究について説明した後、「元々

は大学卒業後、茨城で理科の教員になろうとしていたが、採用試験が不合格で大学院へ進み、そこで研究の面白さをどんどん知っていった」ことを紹介。恩師との出会いによって現在の自分があることを語った。

さらに、小学校1年生から大学時代まで打ち込んだ剣道について、「今、私は剣道で生活しているわけではないが、剣道で培った経験は研究をする上でも生きている。皆さんも、何でも構わないので一生懸命になれるものを見つけてほしい」とアドバイスした。

卒業生からのメッセージとして、「時代の流れに敏感になる」「考えることをやめない」「自分が信じたことに真剣に取り組む」ことを大切にしてほしいと締めくくった。会場に集まった約700人の生徒や保護者らは、先輩の話に真剣な表情で耳を傾けていた。

（石川孝明）

2019年5月21日付茨城新聞 掲載